

6. 学校図書館における学校司書の役割について



学校図書館における学校司書の役割について教育長にお尋ねします。

先日、新聞のコラムに、4年生の教室での、物語「一つの花」（今西祐行・作）の授業の様子が書かれていました。作中の、父親がコスモスを渡した時の心理描写について、登場人物の立場に立ち、状況や背景を踏まえれば、行間から父親の気持ちを想像できますが、一部生徒は読み解く力がなく、父親の悪意や欲望を

描いた作品だと受け取ってしまうという衝撃的な記事でした。しばしばこの物語の誤読問題が取り上げられており、特例ではないと思われます。

読解力の低下については、OECDのPISA（生徒の学習到達度調査）に参加した当初、PISAショックと呼ばれ、大きな衝撃を与えたが、直近の2018年の調査でも数学が6位、化学が5位に対して、読解力は15位と読解力が長らく低迷しています。

ある校長は、学校現場で見られる子どもの思考力の欠如や珍妙な解釈を、「読解力の低下」という問題だけにとどめてはならず、読解力以前の基礎的能力の低下を危惧されています。

発達心理学の今井むつみ教授は子どもが言葉を育めるようになるかどうかの分岐点について、「誰もが生まれ持って分析力、推論力、学習力を兼ね備えているが、それを発揮させられるかどうかは家庭環境が大きな役割を担っている。親が子に対して話かける言葉の量と質が大きな影響を与える」と指摘しています。

家庭の中で培われる言語能力の低下が言われる中、公立の学校に期待される役割が大きくなっています。現行の学習指導要領の解説では、「言語能力は全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となる」と位置付け、各学校において充実が求められる学習活動とされています。子どもたちの言語能力を高めるためには、単に言語を使わせる機会を増やすだけでなく、言葉を使って伝えたいという気持ちや言葉にできる豊かな感情や経験が必要と考えます。

読書は、多くの語彙や多様な表現を通じて様々な世界に触れ、疑似的な体験、

知識の習得、新たな考え方に出会うことを可能にするものであり、言語能力を向上させる重要な活動の一つです。ソサエティ 5.0 時代に、福岡県でも児童生徒に一人 1 台タブレットが配布されました。ICT 化と両輪で紙媒体の本に触れることが重要であり、学校図書館は言語能力だけでなく情報活用能力を育む上でその役割は大きくなっています。課題は子どもたちと本を結ぶ橋渡し役として、学校図書館を支える学校司書が配置され、機能し、役割を果たせるようにすることです。

そこで教育長に伺います。

子どもたちの読書を促すためには、学校図書館の充実が欠かせません。学校図書館を充実させるために必要な専門的・技術的職務に従事するのが学校司書です。学校司書の果たす役割についてどのように認識しているのか、教育長の見解を求めます。

つぎに、本県の公立小中学校の中には、学校司書が常駐する学校、複数の学校を兼務し、本来の役割が果たせていない学校、配置していない学校もあると聞いています。宇美町では「図書館を使った、調べる学習コンクール」を独自に実施し、子どもたちの図書館利用を推進しつつ、町内の 5 小学校、3 中学校に 1 人ずつ司書を置き、毎月、調べ学習に役立つ本などについて情報交換するなど先進的に取り組む市町もあります。県教委では司書の配置が進むよう、どのように取り組んでいるのか、教育長の見解を求めます。

【吉田教育長の答弁】

① 学校司書の役割について

学校図書館は、子どもたちが本に親しむ最も身近な場所であり、読書を通して、情報を得たり、学習を深めたりする機能を有しています。

学校司書は、司書教諭等と共に、児童生徒が進んで学校図書館を訪れたいような環境づくりや、児童生徒や教員の学習情報ニーズへの対応、授業に役立つ資料の整備などを通して、こうした学校図書館の機能を向上させる役割を担っているものと認識しています。

② 学校司書の配置の促進について

国において策定された、第 6 次「学校図書館図書整備等 5 か年計画」には、

学校図書館法において学校司書の配置が努力義務とされていることを踏まえ、学校司書の配置の推進を図ることが示されています。

これに基づき、市町村に対しては地方財政措置が講じられており、県教育委員会においても毎年これを周知しているところです。

また、県教育センターの研修において、学校司書との連携による充実した図書館活動の事例を紹介しており、これらの取り組みを通して、学校司書の配置促進に努めてまいります。